

チーム名	都市計測実験室	大学名・学部	筑波大学	ニューノーマルステージ
プラン名称	一年で周る霞ヶ浦サイクリング～「最下位」の茨城から「再会」の茨城へ～			
テーマ	ニューノーマル時代に対応する観光まちづくり			
リーダー名	石塚隆幸	メンバー名	阿部くらん,阿部孝太郎,一井直人,川辺伶,任伊喰,松原千波	
指導教職員名	大澤義明			

問題意識

ナショナルサイクルルートにも指定された霞ヶ浦りんりんロード！！
平坦で走りやすく、利用者は増加傾向だが…

自治体視点

→サイクリストの消費単価が低く
地域への経済効果が小さい

利用者視点

→推奨されているコースが長すぎるため
初心者や家族連れにはハードルが高い

解決すべき 3つの課題

難易度	滞在時間	消費単価
難	短	低

解決策

霞ヶ浦りんりんロード1周約130kmを3つに分割し、季節ごとに訪れ1年かけてゆっくり1周してもらう

→初心者へのハードルを下げ、立ち寄り観光を促進し、消費単価を上げる

難易度	滞在時間	消費単価	地域活性化！
易	長	高	

プラン概要

ターゲット

都心からのサイクリング初心者、家族連れ

ルート案

春、夏、秋に分けそれぞれの特色を生かし、茨城県の魅力を味わえるモデルルートを作成



何度も訪れたくなる仕掛けの提案

- 自転車借り放題！年間パスポートの導入
 - ・レンタサイクルや飲食店の食事券、宿泊施設割引等をセットに →消費の高単価化と複数回訪れる動機付け
- オールインワンパッケージの導入
 - ・初めての人向けの旅行プランを用意
 - 手ぶらでサイクリングをまずは体験してもらう

新規性

- ・霞ヶ浦りんりんロードを3ルートに分割
- ・季節ごとのルートを提案
- ・旅行プランをパッケージ化

複数回訪れ高単価観光を促す取り組み

実現計画

実現可能性はある

- ・すでにある観光資源をベースとした提案である
- ・周辺自治体間はずでに連携がとれている

新たな提案の導入を検討

茨城県や周辺の自治体と連携し検討していく

ヒアリング協力

茨城県, 行方市, 潮来市, 神栖市, 土浦市

効果

年間60組の利用者と想定

- ◆1週末
60,000円×10組=600,000円
- ◆年間
600,000円×53週=31,800,000円

1年間で少なくとも3,000万円